

第2・3学年複式 国語科学習指導案

日時 平成27年10月1日(木) 5校時
児童 第2学年 男5名 女3名 計8名
第3学年 男1名 女5名 計6名
指導者 教諭 平山 恵美
講師 澤田 瞳

【第2学年】

1 単元名

音読劇でお気に入りの場面を紹介しよう
「名前を見てちょうだい」
(東京書籍2年下)

2 目標

- 人物の様子や声を動きで表現することに興味をもち、物語を読もうとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(読むことア)
- 場面の様子について、人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。(読むことウ)
- 「誰が」「どうした」に気をつけて、文章を読むことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

(1) 児童について

本学級の児童は、文学的な文章が好きで自分から進んで音読をしたり、動作化をしたりするなど国語の学習に意欲的に取り組んでいる。文学的な文章「風のゆうびんやさん」「お手紙」では、挿絵と文章を照らし合わせながらお話の大体をつかんだり、人物の行動や会話から様子や気持ちを想像したりすることなどを学習した。そして、それを生かして自分なりに工夫しながら音読で表現したり、吹き出しに人物の気持ちを考えて書いたりすることができるようになってきた。しかし、場面の様子や人物の気持ちを想像する力に個人差があり、叙述に立ち返らず勝手な解釈で想像したり、内容を正しく理解できなかつたりする児童もいる。また、根拠をもとに発表する場面になると、

【第3学年】

1 単元名

「読書感想ブック」を作って、
感想を交流し合おう
「サーカスのライオン」
(東京書籍3年上)

2 目標

- 物語を読むことに興味をもち、中心となる人物の気持ちの変化を考えようとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- それぞれの場面の人物の気持ちをとらえ、場面の移り変わりに合わせて変化する人物の気持ちを考えながら読むことができる。(読むことウ)
- 物語を読んで感じたことや思ったことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気づくことができる。(読むことオ)
- 自分の感想を表現するときに役立つ語句を増やすことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

(1) 児童について

本学級の児童は、複式学級2年目のため自主的な学習態度が身につけており、自分から進んで音読をしたり、登場人物の気持ちを考えて積極的に発言したりするなど国語の学習に意欲的に取り組んでいる。文学的な文章「すいせんのラッパ」「ゆうすげ村の小さな旅館」では、時を表す言葉に着目して場面を分けて出来事をとらえたり、人物の行動や会話から様子や気持ちを想像したりすることなどを学習した。そして、それを生かして自分なりに工夫しながら音読で表現したり、物語のしなやかさを出来事や人物像と関連させながら考えたりすることができた。しかし、場面の様子の移り変わりと人物の行動や気持ちの変化を関係づけて読んだり、人物について自分の感想をもち交流した

積極的に発言する児童が限られており、自信がなくて自分の考えを発表できない児童もいる。

そこでこの単元では、人物に気をつけて場面を分け、人物の行動や会話に着目して様子を想像し、音読や動作で表現する力を育てていきたい。

(2) 位置づけた言語活動について

本単元では、「C 読むこと」の「内容(1) ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。」「ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」を重点目標とする。そのために、言語活動例「イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること」を具体化し、「音読劇でお気に入りの場面を紹介する。」という言語活動を設定した。

(3) 研究に関わる手立て

手立て I 付きたい力を明確にした言語活動の具現化を図る

【本単元で身につけさせたい力】

C 読むこと：

ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。

ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。

【設定した言語活動及びその特徴】

言語活動：音読劇でお気に入りの場面を紹介しよう。(言語活動例イ)

特徴：「音読劇」の台本には、①読み方 ②動き ③セリフ(気持ち)を位置づける。劇にすることで、児童が意欲的に取り組んだり、他の読み物にも興味をもったりすることができる。

相手：同じ学級の3年生

目的：「音読劇」をすることで、場面の様子を想像して読み、お気に入りの場面を声や動きで表して紹介する。

児童の思い：音読劇で、選んだ場面の人物の様子を表現したい。

能力：・登場人物、場所、出来事、順序な

りする経験が乏しい。また、積極的に発言する児童が多いが、

根拠をもとにして話す場面ではやや消極的な部分が見られる。

そこでこの単元では、中心となる人物の気持ちの変化を考えながら読み、感想を交流して感じ方の違いに気づく力を育てていきたい。

(2) 位置づけた言語活動について

本単元では、「C 読むこと」の「内容(1) ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基にして想像して読むこと。」「オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く。」を重点目標とする。そのために、言語活動例「ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。」を具体化し、「『読書感想ブック』を作って、感想を交流し合う。」という言語活動を設定した。

(3) 研究に関わる手立て

手立て I 付きたい力を明確にした言語活動の具現化を図る

【本単元で身につけさせたい力】

C 読むこと：

ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基にして想像して読むこと。

オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く。

【設定した言語活動及びその特徴】

言語活動：「読書感想ブック」を作って、感想を交流し合おう。(言語活動例ア)

特徴：「読書感想ブック」には、①お気に入りの場面の絵 ②中心人物の一言紹介 ③読書感想文(あらすじ、お気に入りの場面と理由、感想)を位置づける。交流することで、一人一人の感じ方の違いに気づき、他の読み物にも興味をもったりすることができる。

相手：同じ学年の友達

目的：「読書感想ブック」を作ることで、中心人物の性格や気持ちの変化を想

どに着目して場面を分け、文章の
大体的内容をとらえる力

- ・登場人物の行動や会話に着目して
様子や気持ちを想像する力
- ・想像したことを声や動きで表現す
る力
- ・登場人物の行動に着目してお気
入りの理由を考える力
- ・相手の思いを受け止める力

像して読み、お気に入りの場面につ
いての感想をまとめて交流する。

児童の思い：「読書感想ブック」にまとめた感
想を同じ本を選んだ友達と交流し
たい。

- 能 力：
- ・時を表す言葉、出来事などに着目
して場面を分け、あらすじをまと
める力
 - ・中心人物をとらえる力
 - ・登場人物の行動や会話に着目して
人物像を想像する力
 - ・中心人物の気持ちの変化に着目し
てお気に入りの理由を考える力
 - ・中心人物と自分を比べて感想を考
える力
 - ・相手の思いを受け止める力
 - ・一人一人の感じ方の違いに気付く
力

手立てⅡ 自分の思いや考えをつむぎ合う活 動の位置付け

「深める」の段階の、音読劇をするための会話
文の読み方や動きの付け方、登場人物の気持ちを
考える場で、叙述にもとにして意見を交流する活
動を取り入れることで、場面の様子や登場人物の
気持ちを想像できると考える。また、読みを深め
るために、着目させたい文や言葉を取り上げてみ
んなで考え、考えを出し合いつむぎ合うことで想
像しながら物語を読む力がさらに身につくと考え
る。

4 単元の評価規準

○人物の様子を声や動きで表現することに興味を
もち、物語を読もうとしている。

(国語への関心・意欲・態度)

○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音
読している。(読む能力ア)

○場面の様子を音読劇で表すという目的をもって
登場人物の行動に気をつけて読み、場面の様子
を想像している。(読む能力ウ)

○「誰が」「どうした」に気をつけて、文章を読
んでいる。

(言語についての知識・理解・技能)

手立てⅡ 自分の思いや考えをつむぎ合う活動 の位置付け

「深める」の段階で、叙述をもとにして意見を
交流する活動を取り入れ、考えを聞き比べたり広
げたりすることで、中心人物の性格や気持ちの変
化をとらえることができると考える。また、読み
を深めるために、着目させたい文や言葉を取り上
げてみんなで考え、考えを出し合いつむぎ合うこ
とで物語を想像しながら読む力がさらに身につく
と考える。

4 単元の評価規準

○物語を読むことに興味をもち、中心となる人物
の気持ちの変化を考えようとしている。

(国語への関心・意欲・態度)

○それぞれの場面の人物の気持ちをとらえ、場面
の移り変わりに合わせて変化する人物の気持ち
を考えながら読んでいる。(読む能力ウ)

○物語を読んで感じたことや思ったことを発表し
合い、一人一人の感じ方について違いがあるこ
とに気づいている。(読む能力オ)

○自分の感想を表現するときに役立つ語句を増や
している。

(言語についての知識・理解・技能)

5 単元の指導構想

【第2学年】 14時間 本時7 / 14

過程	学習活動	具体的評価規準	指導にあたって
見 通 す	1 ○単元全体の学習の見通しをもつ。 ○課題を設定する。	関教材文のねらいを確かめ、物語に関心を持ち、これからの学習に対して興味をもっている。	・1年生の「大きなかぶ」の音読劇の映像を見せたり、3年生に音読劇を見せることを知らせたりして、学習に対する意欲をもつことができるようにする。 ・教師作成の「大きなかぶ」の台本のモデルを紹介し、イメージを持たせる。
	音読げきでお気に入りの場面をしようかいしよう。		
確 か め る	2 ○物語の大体の内容をつかむ。	読挿絵や人物、場所、時を表す言葉をもとに物語を六つの場面に分け、大体の内容をつかんでいる。	・バラバラに提示された挿絵を正しい順番に並べ替える活動を通して、場面というまとまりを理解させる。また、場面ごとに小見出しをつけ、話の大体の内容をつかませる。
深 め る	3 ○「お母さん」からもらった帽子が風にさらわれる場面（1・2場面）を想像して読む。	読「えっちゃん」の行動に着目して読み、様子や気持ちを想像して音読劇の工夫を考えている。	・会話文の音読の工夫とそう考えた理由を話し合わせ、「えっちゃん」の様子や気持ちを想像させる。
	4 ○野原で「えっちゃん」が「きつね」と出会う場面（3の場面）を想像して読む。	読「えっちゃん」と「きつね」の行動に着目して読み、様子や気持ちを想像して音読劇の工夫を考えている。	・会話文の音読の工夫とそう考えた理由を話し合わせ、「えっちゃん」と「きつね」の様子や気持ちを想像させる。
	5 ○こがね色の畑で「えっちゃん」と「きつね」が「牛」と出会う場面（4の場面）を想像して読む。	読「えっちゃん」と「きつね」、「牛」の行動に着目して読み、様子や気持ちを想像して音読劇の工夫を考えている。	・会話文の音読の工夫とそう考えた理由を話し合わせ、「えっちゃん」と「きつね」、「牛」の様子や気持ちを想像させる。
	6 ○七色の林で「えっちゃん」と「きつね」と「牛」が「大男」と出会う場面（5の場面の前半）を想像して読む。	読「えっちゃん」と「きつね」、「牛」、「大男」の行動に着目して読み、様子や気持ちを想像して音読劇の工夫を考えている。	・会話文の音読の工夫とそう考えた理由を話し合わせ、「えっちゃん」と「きつね」、「牛」、「大男」の様子や気持ちを想像させる。
本 時	7 ○「えっちゃん」が「大男」に立ち向かう場面（5の場面の後半）を想像して読む。	読「えっちゃん」と「大男」の行動に着目して読み、様子や気持ちを想像して音読劇の工夫を考えている。	・会話文の音読の工夫とそう考えた理由を話し合わせ、「えっちゃん」と「大男」の様子や気持ちを想像させる。
	8 ○帽子が戻ってきて「えっちゃん」が遊びに出かける場	読「えっちゃん」の行動に着目して読み、様子や気	・会話文の音読の工夫とそう考えた理由を話し合わせ、「えっ

先行読書

並行読書

		面（6の場面）を想像して読む。		持ちを想像して音読劇の工夫を考えている。	ちゃん」の様子や気持ちを想像させる。
	9 10	○お気に入りの場面を選び、グループごとに音読劇の練習をして、発表会をする。	並行読書 ↓	読人物になりきって、工夫して音読劇している。 言自分の役割の文章に気を付けて、読んでいる。	・お気に入りの場面を選んだ者同士でグループを作らせる。 ・人物の行動に着目したお気に入りのわけを言わせてから、発表させる。 ・3年生から感想をもらう。
広げる	11 12 13 14	○選んだ本のお気に入りの場面の音読劇の練習をして、発表会をする。 ○単元の学習全体を振り返る。		読人物になりきって、工夫して音読劇している。 言自分の役割の文章に気を付けて、読んでいる。	・お気に入りの本を選んだ者同士でグループを作らせる。 ・人物の行動に着目したお気に入りのわけを言わせてから、発表させる。 ・3年生から感想をもらう。

【第3学年】 11時間 本時3 / 11

過程		学習活動		具体的評価規準	指導にあたって
見通す	1	○単元全体の学習の見通しをもつ。 ○課題を設定する。	先行読書 ↓	関教材文のねらいを確かめ、物語に関心を持ち、これからの学習に対して興味をもっている。	・「サーカスのライオン」や自分の選んだ本の「読書感想ブック」を作り、感想を交流することを知らせ、意欲をもつことができるようにする。 ・教師作成の「読書感想ブック」のモデルを紹介し、イメージを持たせる。 ・「読書感想ブック」の「書名・作者名」パーツを書かせる。
		「読書感想ブック」を作って、感想を交流し合おう。			
確かめる	2	○物語の大体の内容をつかむ。	並行読書 ↓	読時を表す言葉をもとに物語を五つの場面に分け、大体の内容をつかんであらすじをまとめている。	・場面ごとに出来事をまとめ、話の大体の内容をつかませる。 ・お気に入りの場面に見当をつけておく。 ・「読書感想ブック」の「あらすじ」の段落を書かせる。
深める	3 4 本時	○「じんざ」の人物像をとらえる。		読「じんざ」の行動や会話に着目し、人物像を想像しながら書きまとめている。	・「じんざ」はどんなライオンか、またそう考えた理由を話し合わせ、人物像を想像させる。 ・「読書感想ブック」の「キャッチコピー」パーツを書かせる。
	5	○お気に入りのわけを書くために「じんざ」の気持ちの変化をとらえる。		読「じんざ」の行動や会話に着目して気持ちの変化をとらえ、お気に入りのわけを書きまとめている。	・「じんざ」の変化の前と後、きっかけを話し合わせる。 ・「読書感想ブック」の「お気に入りの場面とそのわけ」の段落を書かせる。
	6	○「じんざ」と自分を比べ、感想を書く。		読「じんざ」と自分を比べて感じたり、学んだりし	・「もし、自分がじんざなら・・・」ということを考えさせたり、

			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">並行読書</div> 	たことを書きまとめている。 <small>言</small> 感想語彙を増やしている。	「じんざ」から学んだことを今後どう生かしていきたいか考えさせる。 ・「読書感想ブック」の「感想」の段落を書かせる。
7	○交流会をする。			<small>読</small> 感想を伝え合い、1人1人の感じ方に違いがあることに気付いている。	・お気に入りの場面を選んだ者同士でグループを作らせる。 ・お互いの発表を聞き、感想を言わせる。
広 げ る	8	○選んだ本の「読書感想ブック」を書き、交流会をする。 ○単元の学習全体を振り返る。		<small>読</small> 中心人物の行動や会話に着目して、人物像や気持ちの変化をとらえ、「読書感想ブック」を書きまとめている。 <small>読</small> 感想を伝え合い、1人1人の感じ方に違いがあることに気付いている。 <small>言</small> 感想語彙を増やしている。	・お気に入りの本を選んだ者同士でグループを作らせる。 ・お互いの発表を聞き、感想を言わせる。
	9 10 11				

6 本時の指導

(1) 目標

【第2学年】

- ・「えっちゃん」と「大男」の行動に着目して読み、様子や気持ちを想像して音読劇の工夫を考えることができる。

【第3学年】

- ・「じんざ」の行動や会話に着目し、人物像を想像しながら書きまとめることができる。

(2) 展開

支援(○)留意点 (・)研究主題とか かわるところ(◎)	学習活動	段 階	形 態	形 態	段 階	学習活動	支援(○)留意点(・) 研究主題とかかわ るところ(◎)
◎音読劇発表会につ ながる学習である ことを意識させ る。 ※仮説1	1 前時までの学習を 確認する。 ・「きつね」と「牛」 の様子を振り返る。	つ か む 7			つ か む 5	1 前時までの学習を 確認する。 ・1人学びを振り返 る。	◎読書感想ブック作 りにつながる学習 であることを予め 意識させておく。 ※仮説1
	2 本時の学習課題を 確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">えっちゃんが大男 に立ちむかう場面の 音読げきのくふうを 考えよう。</div> ・一斉読をして学習 範囲の確認をする。					2 本時の学習課題を 確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">じんざは、どんな ライオンなのだろ う。</div>	
						3 課題解決への見通 しをもつ。	○根拠となる言葉や 文は、「じんざ」の

○根拠となる言葉や文は、「えっちゃん」の行動に着目して考えるよう指示する。 (めざす児童像①③)	3 課題解決への見通しをもつ。 ・①読み方, ②動き, ③セリフを台本に書き加えていくことを確認する。		・短冊に書いた「じんざ」の人物像と, その理由も交流することを確認する。	行動や会話に着目して考えるよう予め指示しておく。 (めざす児童像①③)
・自分で考えられず困っている児童に「えっちゃん」の行動から様子を想像できるように支援をする。 ◎自分が考えた読み方や動きの付け方の理由を発表し合うことで, 音読劇をどのように工夫したらよいかみんなで考えさせる。 (※仮説2, めざす児童像③⑤⑥)	4 音読劇の工夫を考える。 ・三つの会話文の読み方と動きの付け方, セリフを考える。 C: 強く読む。わけは～。 C: おこったように読む。わけは～。 C: だんだん体が大きくなるように動く。わけは～。 ・学び合いを受けて, 台本にメモをする。 5 音読劇の練習をする。 ・グループごとに役割を決めて練習をする。	学 ぶ 8 深 め る 22	4 「じんざ」の人物像をとらえる。 ・どんなライオンか考える。 C: 勇気のあるライオン。わけは～。 C: やさしいライオン。わけは～。 C: 金色に光るライオン。わけは～。 ・学び合いを受けて, 読書感想ブックに人物像をキャッチコピーで表現する。 ・お気に入りの場面の絵を描く。 5 並行読書をする。 ・どんな人物像かが分かる場所に付箋をつける。	◎自分がとらえた「じんざ」と理由を発表し合うことで, 人物像についての考えを深めていきたい。 (※仮説2, めざす児童像③⑤⑥) ・キャッチコピーとお気に入りの場面の絵が合うように確認させる。
・いくつかのグループに発表してもらい, 3年生から感想をもらう。	6 学習のまとめをする。 ・音読劇の発表をする。 ・振り返りをする。 7 次時の学習内容を確認する。	ま と め る 8	6 学習のまとめをする。 ・まとめた人物像を発表する。 ・振り返りをする。 7 次時の学習内容を確認する。	・数名の児童に発表してもらう。

(3) 本時の評価規準

【第2学年】

目標 (領域)	A 十分満足	B 概ね満足	C 支援の手立て
「えっちゃん」と「大男」の行動に着目して読み, 様子や気持ちを想像して音読劇の工夫を考えることができる。	「えっちゃん」と「大男」の行動に着目して読み, 様子や気持ちを想像して読み方や動きの付け方, 付け加える	「えっちゃん」と「大男」の行動に着目して読み, 様子や気持ちを想像して読み方や動きの付け方を考えている。	友達の見聞を聞いて実際に読んだり, 動いたりして音読劇の工夫を考えられるように支援する。

セリフを考えている。

【第3学年】

目標（領域）	A 十分満足	B 概ね満足	C 支援の手立て
「じんざ」の行動や会話に着目し、人物像を想像しながら書きまとめることができる。	「じんざ」の行動や会話に着目し、人物像を想像したり、考えを広げたりしながら書きまとめている。	「じんざ」の行動や会話に着目し、人物像を想像しながら書きまとめている。	友達の意見を聞いて、「じんざ」の人物像を想像できるように支援する。

(4) 板書計画

【第2学年】

名前を見てちょうだい
えっちゃんが大男に立ち向かう場面の音読
げきのくふうを考えよう。

・読み方…
・動き…
・セリフ…

【台本】
けれども、えっちゃんは帰りませんでした。むねを
はつて、大男をきりりと見上げて言いました。

おこったように、つよく、きりりと
「わたしは帰らないわ。だって、」

すると、えっちゃんの体から湯気がもうもうと出て
きました。そして、ぐわあんと大きくなりました。

もっとおこったように、つよく
「食べるなら食べなさい。あたし、」

さらにおこったように、つよく
「あたしのぼうしをかえしなさい。」

お母さんからもらった大
事なぼうしなんだから。

・読み方↓だんだん強く
・動き↓だんだん大きく

【第3学年】

サーカスのライオン
じんざは、どんなライオンなのだろう。

① サークスがやってきた場面

② 男の子と出会う場面

③ 男の子がライオンのおりをたずねてくる場面

④ 勇気のあるライオン
ぱつと火の中へとびこんだ。
力のかぎりほえた。

⑤ やさしいライオン
ぱつと火の中へとびこんだ。
力のかぎりほえた。

⑥ 金色に光るライオン
金色に光るライオン。
びかびかにかがやくじんざ。
金色に光るライオン。
かわいそうなライオン
たちまちくらやみの中に消え去った。

⑦ じんざがいらないサーカスの場面
みんなに思われているライオン
お客は一生涯命に手をたいた。